

東よか干潟

(ひがしよかひがた)

位置：北緯33度10分、東経130度15分／標高：-2.5~1m／面積：218ha／湿地のタイプ：干潟／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：佐賀県佐賀市／登録：2015年5月／国際登録基準：2、4、6

湿地のタイプ：干潟



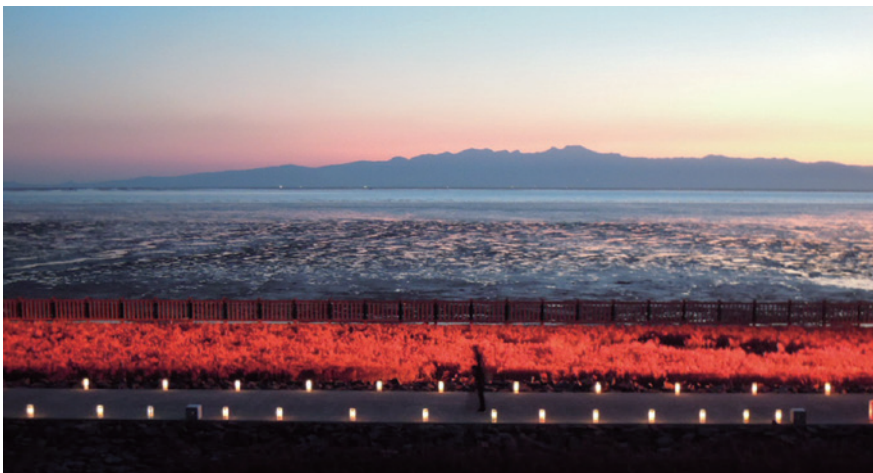
南西からみた東よか干潟全景



シギ・チドリ類の重要な中継地(写真:八木ひとみ)



東よか干潟ビジターセンターひがさす



秋、あでやかに紅葉するシチメンソウの群落

湿地の概要：

東よか干潟は、有明海的最奥部である北岸に位置し、佐賀市東与賀干拓(大授地区)の南に広がる泥干潟である。佐賀空港の西側を流れる八田江と本庄江に挟まれている。ムツゴロウやワラスボ、シオマネキなど有明海泥干潟の代表的な底生生物が多く生息し、地域特有の伝統的な漁法(タカッポ、むつかけなど)による漁業がいまも営まれている。

有明海：

熊本県、福岡県、佐賀県及び長崎県に囲まれた有明海は、日本最大の干潟差(最大6m)を持つ内海である。外界から内海へ約100kmも進入する細長い形状で、海としては閉鎖性が高いが、多くの河川から栄養分に富んだ大量の土砂が流れ込む。これらの土砂は満ち潮に巻き上げられ、

潮流に乗って湾内を反時計回りに還流し、満潮時の海水の静止により堆積し、引き潮になると取り残されて干潟を形成する。有明海には現存する日本の干潟の総面積の40%に相当する干潟が存在しており、非常に貴重な環境である。

最大級の渡り鳥の中継地、越冬地：

東よか干潟は、ズグロカモメ、クロツラヘラサギ、ホウロクシギなどの絶滅危惧種を含む水鳥の国内有数の渡りの中継地、越冬地となっている。また、環境省が実施しているモニタリングサイト1000のシギ・チドリ類調査において、飛来数で全国一位を誇り、2020年の春期の飛来数は1万4,763羽であった。

海岸堤防上にある東与賀海岸展望台からは、紅葉が美しいシチメンソウの群落とその後方に広がる干潟が一望でき、海

岸線沿いの遊歩道からは、引き潮のときには無数のカニやムツゴロウ、トビハゼなどが観察できる。春・秋の渡りの時期に、数千羽のシギやチドリが干潟めがけて飛んできて、一心不乱に餌をついばむ姿は壮観である。

干潟の保全活動：

有明海的最奥部に位置するため、台風や大雨のあとは大量のごみが海岸に漂着する。その漂着ごみは、地元ボランティア団体の定期的な清掃に加え、市民、企業等が協力して、保全活動を行っている。

また、「ラムサールクラブ」では小中学生や大人約30名が、クラブ活動として干潟の生きもの調査や環境学習に励んでおり、保全活動の未来のリーダーの育成にもつながっている。

●関係自治体

佐賀市役所 Tel: 0952-24-3151

